

5月23日(土)に、伊丹市スワンホールで開催された「2026アースデイいたみ」に出展し、同じ日の夜に、猪名川河川敷(伊丹市・桑津橋上流左岸)で「ヒメボタル観察会」を行いました。みなさんに身近な川に広がる自然環境への理解を深めていただく、豊かな一日となりました。

2026アースデイいたみ

さまざまな環境の中で、いろいろな生きものが、おたがいに影響し合って暮らしています。「しぜんとなかよくするために」をテーマに、地域で活動する団体や伊丹市がみなさんの自然環境への関心を高めるために開催したこのイベントで、猪名川河川レンジャーは猪名川の環境についての展示を行いました。小学生や保育園の子供たちと、そのご家族をはじめとする多くのみなさんにお立ちよりいただきました。

猪名川の魚つりゲーム



本物の魚と同じ大きさの模型を使ったゲームでは、魚をつり上げたあとに、大型のパネルの中から同じ魚を探してシールをはり、その魚が猪名川のどこにいるのか、どんな特ちょうをしているのかを河川レンジャーといっしょに学びました。

外来種※1の標本展示



来場者はアカミミガメの甲らやウシガエルのおお大きさにおどろいていました。日ごろなかなか見ることのないブラックバスやブルーギルを間近で観察したり、ヌートリアの頭骨にふれたりすることで、水辺の生態系について学んでいただきました。

猪名川クイズ

展示を見ると答えがわかる「猪名川クイズ」にチャレンジしていただきました。展示された標本の説明やパネルをじっくり見て、猪名川について学びながら答えを探すが姿が見られました。



河川レンジャーの展示ブースに来たみなさんからは、「思っていたより多くの生物がいるんだな」「こんなに外来種※1がいるとは知らなかった」「河川を大切にしなければならぬ」などの感想があり、猪名川の環境を守る大切さを楽しく学んでいただくことができました。

ヒメボタル観察会



ヒメボタルは大阪府と兵庫県のレッドリストに載っている重要種※2で、メスが飛ばないために環境の影響を受けやすく、今では見られる場所が少なくなっています。そのような中でも、豊かな自然が残されてきた猪名川では、今でも広い範囲でヒメボタルを見ることができます。まちを流れる猪名川の豊かな自然環境についてみなさんに知っていただくために、今年もヒメボタルの観察会を開催しました。



ヒメボタルの特ちょうや、猪名川の自然の大切さ、ヒメボタルにやさしい河川管理の取り組みなどを、参加されたみなさんに簡単にご説明した後に、観察場所までご案内しました。当日はとても風が強く、ヒメボタルが発光しながら飛び交う様子はあまり見られませんが、ヒメボタルの説明や草の上にとまって光るヒメボタルの観察を通して、参加者のみなさんに「自然の大切さを再認識した」「ヒメボタルの生息環境を守っていききたい」などのお声をいただきました。観察場所は、最寄り駅の「JR伊丹駅」から徒歩約10分で、堤防の上に道路が整備されているため、安全にアクセスできる場所です。ヒメボタルは毎年5月中下旬に観察できます。みなさまもぜひ足を運んでみてください。



猪名川に暮らす『みんな』が安心して暮らせる取り組みが続けられているんだね。



今日のおさらい ~ヒメボタル編~

猪名川の近くにホタルがいるなんて知らなかったよ!

ヒメボタルは木や草がある自然が豊かなところに暮らしていて、カタツムリをエサにしているんだ。

だから、いろんな生きものがいる猪名川の自然を守ることが大切なの!

なるほど。でも、川の近くに木があると大雨の時はどうなるんだろう?

川の水が木に邪魔されて流れなかったら、まちに水があふれ出してしまうよね。

でも、木がなければヒメボタルがすめなくなるわ。そんなの悲しい!

河川レンジャーから学んだことをふり返ろう

大雨の時に川の水を安全に流すことは、まちを守るために必要です。河川敷の木が成長すると、川の水が洪水の時に流れにくくなり、水があふれやすくなるため、木を切ることは欠かせません。



ですが、機械を使うと、木が全部なくなったり、地面が固くなって幼虫がすめなくなるため、成長した木を選んで人が切っています。この工夫によって、『まち』と『ヒメボタル』を守っています。



ヒメボタルのオス

猪名川を守るための3つの約束

ゴミをすてない

川をよごさない

外来種※1を持ちこまない

※1...もともとその地域にいなかったが、人間の活動によってほかの地域(海外など)から入ってきた生きもの
 ※2...数が少ない、見られる場所が少ないなどの理由から、みんなで守っていくべき生きもの